



セルマー&バンドーレンで育ってきた僕たちの音を 「野中貿易設立55周年記念演奏会」で体感してほしいね

大津立史さん、栄村正吾さん（「シエナ・ウインド・オーケストラ」サクソフォン奏者）

セルマー・パリのサクソフォン
それは憧れの響き

大津 初めてセルマーを手にしたのは、高校の時でした。ええ、憧れの的でしたね。栄村さんはどうだったの？

栄村 ボクは四国で育ったからなかなか情報がなくて。でも、やはりセルマーは憧れでしたよ。



大津 今、シエナではバリトン・サクソフォン担当なんですけど、もともと楽器を始めたときも「バリトン」だったんですよ。といつても金管のほうの……ユーフォニアムでした、正確に言えば（笑）。でも実際の話、ユーフォニアムを始めて数か月でようやくドレミファが吹けるころになってからサクソフォンにまわされたのですが、それもその時ようやく新品のバリトン・サクソフォンが届いたから、ということ。素質とかなんとかというより、その頃から背が高かったからまわされただけなのかもしれない（笑）。しかし、そのおかげで今はこの楽器でさまざまな「冒険」をしていますから、出会えて満足しています。

栄村 そのあたりからもうプロを目指していたんですか？

大津 とんでもない。友達が音大を目指すといるので、なんとなく、ね（笑）。

しかし、その後シエナにもバリトン奏者として入団し、現在は演奏の傍ら、この業界では例を見ない「独立中間法人」として活動するシエナの、いわば「経営責任者」としての重責も担っている。



大津立史（おおつ たつし）

東京都出身。日本大学芸術学部音楽学科を首席で卒業。芸術学部賞受賞。桐朋学園大学研究科修了。第13回日本管打楽器コンクール第4位入賞。読売新人演奏会、東京文化会館推薦音楽会などに出演。現在「シエナ・ウインド・オーケストラ」サクソフォン奏者。また同オーケストラの代表理事インスペクター。サクソフォンを武蔵賢一郎氏に、室内楽を鈴木清三氏に師事。

大津 入団するときからバリトン、というのも決まっていたらしいんですけどね。正直言って、当時はあまりうまくなかったんです。音大を目指していた頃の腕前といったら、今の高校生の方がうまいくらい（笑）。でもそれが変わったのは、工藤藤典典氏の演奏を聴いたのがきっかけだったんです。

栄村 へえ、サクソフォニストに影響されて、ではなかったんですね。

大津 そう。言葉ではうまく言いあらわせないけれど、楽譜の枝葉末節にこだわっているのではなく、思い切った表情をつくっていくあのスタイルに衝撃を受けて……。それから、自分もああいう表現がしたい、

と想って必死に練習したんです。

栄村 そうだったんですか。僕は大津さんの演奏を高校3年のときに昔のバリオールで聴いて、すごく印象に残っています。

大津 そうだったの（笑）。栄村さんは毎週末に四国から東京にレッスンを受けて来ているようですが、すごい話ですね、それ。どうやって通ったんですか？

栄村 当時僕が居たのは徳島だったんですが、今のように入団ネットもないし携帯電話もない時代だから、情報に飢えていたんですね。雑誌で夏のサクソフォン・キャンプがある、というのを知って参加して、そこで知りあった先生に手

紙を書いて、東京まで通うようになったんです。

大津 学校は？

栄村 もちろん早退と遅刻はやむをえない(苦笑)のですが、校長に直談判したんです。これこれこういう理由で東京に通いたいから、月曜の午前中だけは休ませてくれ、と。いい時代だったんですね、それを認めていただいたから、本当にありがたかった。

大津 でも大変だったでしょうね。

栄村 夜行列車か船便ですね。土曜のお昼に高松を出て、東京には日曜の朝に着いてレッスン。夕方の便で四国に戻る、という感じでしたから、高校には月曜の昼から、という暮らしでした。

そんな熱血サクソフォニストの栄村氏には、「出戻り」。パリ留学のために一度シエナを辞め、帰国後にはエキストラとしてしばらく参加していたものの、あらためてオーディションを受けて再入団が決定した。

大津 参加者は50名ぐらいで、彼は最年長でしたが、めっちゃくちゃよかったです。正直いつか戻ってきてほしいと思います。若くてうまい人もいっぱいいます



栄村正吾 (さかえむら しょうご)

徳島県出身。東京芸術大学音楽学部器楽科を安宅賞を得て卒業。ギャップ・ヨーロピアン・サクソフォン・コンクールのセミファイナリストで、パリ国際コンクール第2位受賞。レオポルド・ベラン・コンクールにおいて第1位および大賞受賞。フランス国立セルジー・ポントワース音楽院高専科を首席で卒業後、同音楽院演奏科を修了。フランスをはじめ、ヨーロッパ各国において演奏会、音楽祭に出演し、好評を博す。NHK-FM土曜リサイタルに出演。サクソフォンを佐藤典夫、故・大室第一、富岡和男、須川展也、ジャン=イブ・フルモーの各氏に師事。「シエナ・ウィンド・オーケストラ」アルト・サクソフォン奏者、昭和音楽大学、同短期大学非常勤講師。

たしね。あんなに緊張したのは10年ぶりでしたねえ(笑)。

バンドーレン・リードの フロッパックは実にフレッシュユ

大津 ところでリードはずっとバンドーレンだよ。

栄村 そう。今のバンドーレン・リードはすべて「フロッパック」といって、フランスの工場で作られたときの状態のまま1枚1枚パックされているの。もちろん中身はこれまでと同じなんだけど、輸送途中での湿度変化などの影響を少なくするために考案されたものなんです。大津 (開けてみて) おお! フランスの香り……がするよな(笑)。でもこれ、いいアイデアですね。

楽器はふたりともセルマーの愛用者で、ともに金メッキのシリーズII、リードはバンドーレンというところまで一緒だ。

大津 ボクのバリトンはちよつと珍しいかも。最初はラツカーだったのをはがしてもらって、ゴールド・プレート(金メッキ)にしたんです。やってみたら、かなりいい。どんなに吹きこんでも音が広がらない。まとまってくれるので、つい

吹きすぎてしまうくらい。もう一息踏み込める懐の深さ、そこがいちばんいいですね。

栄村 僕もゴールド・プレートだけど、同感ですね。ボクの場合は楽器をもってから、ほほ浮気せず、ですね。特にリードはずっとバンドーレン。わずかな個体差があるのは天然のものなのであたり前

だけど、バンドーレンは、あたったときの自由度が高いんです。すごく幅広い対応力が魅力ですね。なんでも吹いていいよ、と呼びかけてくれるような、最初のあたりが好きなんです。音の出方なども、あまりこねくりまわさなくていい。素直で奏者にきちんと応えてくれるセッティングですね。

実はこのお二人、この秋に予定されている、セルマーとバンドーレンを取り扱ってきた野中貿易の設立55周年記念演奏会で、その音をきかせてくれる。シエナはこのコンサートのホストバンドとして「みなとみらい」大ホールに登場するのだ。大津 お話をいただいたときは、めっちゃ

くちやうれしかったし、びっくりしました。ずっと愛用していた楽器の輸入元だし、それに、野中貿易のある横浜のみなとみらいホールでは、シエナは思い出深いステージをたくさんやらせていただきましたから。

栄村 そうですね。だから思いっきり祝祭的なプログラムにしました。最初のシヨスターコヴィチの「祝典序曲」は、パングも入れて盛大に。そしてシャンパンを抜く音を模したバーンズの「シンフォニック・オーヴァチュア」でさらに気分を盛り上げ、メインはレスピーギ「ローマの祭り」。これもパングを入れて、盛大に鳴りまくりましますから、期待して欲しいですね。

大津 それから、開演前には楽器の展示と、シエナのメンバーによる楽器体験コーナーがありますから、お楽しみに。

栄村 ちょうど横浜では楽器フェアが開催されている期間中ですから、フェアの帰りにのぞいてみてください。絶対楽しいですよ!

♪ コンサート情報 ♪

THE 55TH Nonaka Boeki Co.,Ltd. ANNIVERSARY CONCERT



野中貿易がおくる
シエナと巡る音楽の世界旅行へでかけませんか

2007年
11月2日 土

18時開場 19時開演
横浜みなとみらいホール
大ホール

【出演】
司会・指揮とピアノ/青島広志
指揮/松沼俊彦
吹奏楽/シエナ・ウィンド・オーケストラ
オルガン/室住素子
【曲目】
シヨスターコヴィチ/祝典序曲
ピゼーノ「アルルの女」より 他

全席指定:2,000円
チケットぴあ:0570-02-9990 C Nプレイガイド:0570-08-9990
横浜みなとみらいホールチケットセンター:045-682-2000
主催:野中貿易株式会社
問い合わせ:ミリオンコンサート協会:03-3501-5638